

## 「ゆりの樹幼稚園が目指す人間像」

心と体が健康で、謙虚で、素直で、正直で、柔軟性があって、  
勇気があって、自己決断ができる人に育っていくように、  
— 1粒の花の種が実を結ぶように…確実な実りをめざして—

学校法人 高杉学園 学園長 高杉美稚子

私の一番好きな花、サクラが咲く、春爛漫の季節がやってきました。  
いよいよ平成23年度の始まりです。今日ここに新しいゆりの樹  
幼稚園の園児、保護者、職員を迎えて、新メンバーで新年度が、  
スタート出来る事を心より嬉しく思います。

今年はこの園児達とめぐり合い、保護者の方と出会い、このメンバー  
である必要があって、この素晴らしい、教育の場での仲間が今、ここに  
めぐり合ったのです。心から感謝致します。

平成も23年目です。時の流れの速さを感じずにはいられませんが、  
「過去の後悔や、未来の不安に振り回されず『今ここに生きる』事に  
徹する」ことができれば、素晴らしい実りがやがてやってくると  
信じています。



名誉理事長である母を毎年、桜を見に連れて行きます。毎年この季節がくると、あと何回、この桜を見る  
ことができるのだろうと感じます。そして今年は特にそう感じずには居られませんでした。人生には、  
どうしようもなく、くじけそうになったり、あきらめたくなるような、つらい、苦しいこともたくさん待  
っています。だからこそ、味のある人生にもなるのかもしれない。そうはいつでも今回の東北、関東大  
震災のような、辛く、胸がはりさけるような、耐えがたい、困難な道を通り切るにはどうすればいいのだ  
ろうと惑い、そして同時に、この大震災を通して、自分自身もあと何回この桜を見ることのできるのだろ  
うと、命の尊さとはかなさと、今年の桜を見ることのできる小さな幸せを感じずにはいられない春でした。

そして、何より今回のつらい、悲しい地震のニュースの中でも、ほんの少し心が癒されたのは他の国から  
の日本人の感謝、思いやり、節度、マナーを驚きを持って承認するニュースに出会ったことです。

例えば、中国の新聞では『日本人の落ち着きと冷静な判断』、インド紙では『被害の中でも規律を保つ  
日本人を日本には人間の連携が今も存在している』そして、ロシアの独立系紙では『日本には最も困難な  
試練に立ち向かうことを可能にする人間の連帯が今も存在している』と承認し、AP通信では『少ない食  
糧を分け合い、自分より他者を気遣う被災者の、パニックも暴動も起こさず、規律を守り、静かに苦難に  
耐える姿』を讃えました。

そして『日本の過去の様々な苦難を立ち直らせてきたのは、この Resilience (打たれ強さ) と  
Resignation (忍従)』と伝えています。レジリエンスとは金属などを曲げても折れずに元に戻る弾力性  
そして立ち直る力を意味します。そして『震災の傷は永遠に消えないが、どんな苦難があっても、日本は  
必ず立ち直る、なぜならレジリエンス・スピリット (打たれ強い心) が日本人の心があるから、そして世界

は、この想像を絶する姿から多くのことを学ぶに違いない』と伝えています。その他にも、日本人は、人間としての人に対する尊厳と秩序正しさ、規律、感謝の心、謙虚さ、勇気、節度、識別などの美德の心が残っていると伝えられています。

このことはまさに、『**ゆりの樹幼稚園が目指す人間像**』です。

時代の変遷と共に変化していくものと同時に、大切なものは、引き続き継続し、次世代に語り伝えていかなければならないと思います。そして、社会や地域がどんなに変化しようと創立以来変わることなく、本園の子ども達はとても素直で、輝くような笑顔です。この笑顔を絶やすことなく、58年の長きに渡り、脈々と受け継がれてまいりました建学の精神を守りながら、これからも、教職員心を一つにして、より一層研鑽を深め、新しい時代の社会変化に伴い、より充実した幼児教育を目指して日々努力してまいります。

**『輝く太陽を目指しすくすく伸びる大樹のように、夢と希望に向かって愛と勇気を持って、この地球を自分の足で、自分のシナリオで歩いてほしい！』ゆりの樹幼稚園の願いです！！**——その願い通り子ども達が学童期を経て、やがて成人した時に、本園の体験を通した『共感と個別性の自立の循環、思い出と感動の教育、知ることの喜びを知る体感教育』が芽吹き、どんな困難も乗り越えていく「真の生きる力」につながるように力を合わせていきましょう。

以前にも書きましたが、そのためにも大切なことは、やはり次のことです。

### 1、困難なことをさけない

人生で安易な道、安易な道と苦労を避けてお気楽に生きることもできます。しかし究極のところ、安易な道は、幸福に至らないのです。惨めさや、辛さ、悲しさ、苦しさを避けて生きている限り、本当の人生の達成感を得ることは出来ないのです。たとえ、一生が困難な労苦と勤労であったとしても、それでもそれが尊きものだと思えることが幸福です。毎日の小さな積み重ね、「なあーんだこんなこと」と思うことを少しずつ続けるという地味な努力なしに人生の幸福は得られないのです。子育ても同じです。

### 2、結果ではなくプロセスを楽しむこと

素晴らしい生活を送る秘訣というのは、わかりきった地味な努力をし続けること以外にありません。そのプロセスにこそ、喜びと楽しみを見出す人間になることです。山に登れば、困難にあうのが当たり前です。困難を楽しめればたやすく登れるように感じるでしょう。人生にどんな労苦と勤労があったとしても、それがどのように自分を成長させてくれるか、楽しみに受け止める事が出来れば、労苦と勤労こそが人生の味付けであり、人間を深く、豊かにさせてくれるものです。人生は、味わいながら、ゆっくりと心のゆとりをもって過ごしたいものです

### 3、自分に素直でいること

過去の自分を否定することなく、惨めに感じることも、つらいことを、悲しい、苦しいことも自分の心で十分に感じた上で、自分の中に受け止め、心を少しでも軽くして生きることが人生を幸福に生き抜くためには大切です。その為に、これから日々、行動し、生き生きしている為に必要なことは、自分に素直でいることです。素直にいる為には自分の感情に気づくことです。その自分の感情を知る為には、惨めな、辛い、悲しい、苦しい体験が必要なのです。惨めさや苦しさを、悲しさ、苦しさを味わえないことはまず感性がない、そのことを感じることも出来ない人です。だから、惨めな、辛い、悲しい、苦しい体験を排除してはいけません。

### 4、感謝の心をもつこと

たとえ、苦労があって惨めだと感じたとしても、まずそんな自分を感じられたこと、その感情がもてたことを感謝しましょう。今ここに自分がいる事に感謝することから始めましょう。幸せは誰かに幸せにしてもらうものではなく、自分で感じるものです。だから感性教育が必要なのです。自分が幸せに感じてい

る人間が幸せであり、自分が幸せだと感じられない人が不幸だけです。持っているものより持っていないものが気になる人間は不幸です。どんなに与えられても感謝する心がない人間は不幸であると私は感じます。

#### 5、フリをしないで自分の本当の人生を輝かせること。

人の承認ばかりを求めていると、素直な自分ではなく、人に承認をもらう為だけに違う自分を演じるようになります。もちろん、人生は舞台であるという言葉もありますので、本当の自分を知っていて、尚且つ、自分が自分である為に、一生を演じきれば、それはそれでその人がそのことを自分で決めたのだから素晴らしい一生です。でも人に気に入られたい、認められただけで演じ続けると、やがて、本当の自分が何なのかわからなくなり、自分の存在が透明になります。そしてうつになり、リストラにいたるのです。

フリをせず、自分に素直に生きることができれば、自分の人生を選択、決定できるようになります。自分で答えを出すことが出来、人の承認を求めなくても「私は私」でいられるようになります。そして自分の人生に責任が取れるのです。だから他人の目を気にして、フリをして、自分の人生、他人がどう思うかで動かないことです。自分の人生を自分のシナリオで自分の足で歩けば、自ら輝いていることが出来るのです。

自分の人生が生き生きしている為に必要な事は、人がどう思うかに振り回されず、自分自身が答えを出し、自分で輝くことです。自分が苦しむことを望まないならば、誰も苦しめることは出来ないのです。苦しめられたと思うから苦しむのです。苦しみ、怖い、情けないと嘆いている人とそうでない人と体験が違うのではありません。同じ体験をして他人が苦しんでないのに、自分が苦しんでいる時は自分の内面が輝いていないからだけにすぎないのです。

幼稚園でもっとも大切なことは、子ども達、保護者の方、職員の教育と成長です。このことがなくては、教育の現場とはいえません。子どもと共に育つことが大切です。子どもの成長に負けない大人でいたいものです。その為には、「ゆりの樹幼稚園」の教育方針をもう一度、心に刻んで頂くことが大切です。だからこそ、ゆりの樹幼稚園の教育があります。新年度にあたり、今一度教育方針の確認をして頂きたいと思います。そして、しっかり理解していただき、子ども達のために手を取り合って、心を一つにして歩んでいきましょう。まずは小さなはじめの一步から・・・

#### ★ゆりの樹幼稚園で目指す教育の三つの柱★

- 1に「真の自立への道」(個別性と共感)
- 2に「知ることの喜びを与えること」(自己成長の継続と問題解決能力)
- 3に「感動と思い出を作ること」(生命の尊重と危機管理能力)



#### ★三つの教育の根幹★

- 1、**共育**—自立への援助として、子どもと同じ目の高さになって、同じ純粋な心をもって、子どもを取り巻く教師が、保護者がともに育つ「共育」
- 2、**響育**—感動と思い出を持って心と心が響きあう、子ども同士、大人同士、子どもと大人が、それぞれが問い掛けたことがかえってくるそんな「響育」
- 3、**驚育**—知ることの喜びは、驚きと発見の連続を育てる「驚育」でありたいと考えます。

この三つの柱、三つの教育の実現のためには、「セルフコントロールできる子どもに育てること—自己決定能力のある子どもにすること」が大切にあると私は考えます。そこで、決断の教育の循環が大切に

なってくるのです。

### ★ゆりの樹幼稚園が考える教育の循環

「自己選択→決断→承認→自信→自他分離→個性→共感→自立」の教育の循環を通して、真に自立し、自分の事が大好きな子ども達を育てていく「自分が大好きで、自分が信じられる」教育です。

この教育は、子ども達が自ら選択、決定し、自己承認が出来る 日々の保育を通してその年齢に不可欠な子ども達の望ましい成長と発達を促す教育でもあります。子どもが自分で決めるということはとても大切なことで、いつ自分で決めるのかも含めて子どもに任せて待っていてあげるところに子どもの自主性が育ちます。自分で自分を律する（セルフコントロールできる）ことが出来れば、人は切れません。自分で決めるためには、「小さくても自分にとって大切なことを、自分の感情に気付いて、自分で決めるという体験が必要」です。いつするかも含めて、自分で決めていいとなると、自分の衝動や欲求を抑制したり、先延ばしにしたり自分で出来るようになって行きます。この「セルフコントロールできる子どもに育てることー自己決定能力のある子どもにすること」の課題は、友達とのかかわりの中で育つことがもっとも大切です。それが三つの友達とのかかわりです。

### ★ゆりの樹幼稚園が考える三つの友達とのかかわり

- 1、「私は私」という自分の存在の確立
- 2、「私とあなた」という二者の関係、共に生きるということ
- 3、皆の中の自分という存在



『心の教育とは』ルールを教えるのではなく、なぜそうしないといけないかという気持ちを教える事「片付けることが大切」という事を教える事が教育ではなく、片付けると気持ちが良いという気持ちを教えるのが心の教育です。この気持ちが理解できない限りしつけも子どもの心と体の中に定着することはありません。そうしたほうが心地よいことを子ども自身に感じてもらうことが心の教育です。このことを教えないとルールだけを守る人間になるのです。

『心』を教えないで社会のルールだけを教えると、その人は間違った努力をしてしまうことになります。もし、子どもが、その事に気付かないで、ただ親や他人の承認を得ようとして言いつけを守るとすれば、その意味がわかっているのではなく、怒られるのが嫌だからしているのもあって、理解しているのではないのです。

又、自分のことをわかってくれた時の、ほっとした体験をした時の気持ちが子どもの心を育てます、気持ち良いという心、感情、心地良さを育てる事によって心が育つのです。全ての教育は子どもが自分の心に躍動するものがなければなりません。そしてその気持ちをわかってくれた人の言う事を人はきくのです。大人でも自分の気持ちをわかってくれない人の言うことを聞けますか？子どもはもっと敏感です。そして、子どもが自分の気持ちに素直になり、かかわりの中心になった時に初めて心の教育が出来てくるのではないのでしょうか。先生や友達と心をひとつにすると気持ちがいいと感じること、子どもは親、教師や友達とかかわることで自分の存在を確認していきます。

園や家庭生活を通して、子どもは自分の心に修正を加えながら、「最後まであきらめない心、苦しくても悲しくても、つらくてもそれを乗り越えていく心」を会得し、「自分が自分であるというアイデンティティを確立」していくのです。それが『育てる』つまりは『自ら育つ』ということなのです。

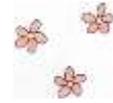


そして、もっとも大切にしたいのは信念を持ってゆりの樹が考える「10E」を生きること。

## エコ・エンバイロメント

常に自分の心と体の健康に気をつけること。そのためには自分の周りの物的、人的環境を整えること。愛のある言葉、夢、希望が持て、勇気が出る言葉をしっかりたべる「心の朝ごはん」、そしていつも自分のことを理解してくれ、共感してくれる人を見つけておくこと、「心のウンチ」ができる場所があることが大切です。

しっかり心の朝ごはんを食べたら、うんちを出すことも大切、もし、心のうんち（不満、不安な、怒りなどの感情）を出すことができなかつたら、抑圧となって、それは変な形となって爆発するのです。だから、時、場所、相手、タイミング、言い方を考えて、上手に出すことが大切です。



## エデュケーション・エモーション

エデュケーションは先に述べた、ゆりの樹の三つの教育、三つのかかわり、三つの柱です。そして、その実現の為に、「ゆりの樹の10E」があります。心の朝ごはんと心のウンチを上手にすることが「ゆりの樹の10E」につながります。なぜなら、先に述べたように、その行動がどのような、自分の心の奥底にある動機、感情に突き動かされてしているかが大切だからです。だから、**感情・エモーションに気づくこと**が一番大切です。自分の感情に気づかない限り、自分がどのような感情、動機に突き動かされて行動しているのか気づかない限り、自分の行動は納得できなくなるのです。感情に気づかない限り、自分が、居心地がいいか、悪いかも自分で分からないので、自己選択、自己決定もできないのです。感情に気づけば、自己選択、自己決定ができ、自分を承認し、自信がつき、自分に自信があるから、自他分離し、他人も自分も「これでよし」と、共感し、そこに真の自立があることは、「ゆりの樹の教育方針」ですので、もう既に充分ご存じのことでしょう。これが自他肯定です。自他肯定できるからこそ、素直な言葉が出てきます。自分の心の声、感情に素直であれば、他人の目を気にして、フリをしなくて済みます。

## エンパワーメント・エンターテイメント・エンジョイ・エクセレント

人間力・エンパワーメント（色々な人や本がどんなに良いことを教えてくれ、私達が進む道を示唆してくれても、自分がその道を進みたい《進むべきではなく進みたいという気持ち》が大切。人生はshouldからWillへの転換が大切。他人がどう思うかを気にした「すべき」から「自分がどうしたい」のかという切り替えが大切。）それが人間力が増してきて、他者を理解することにもつながるし、どんな自分も受け入れる事が出来るようになるのです。

結果として、心がリラックスし、どんなことも楽しんで・エンジョイして取り組める大人に育っていくことが出来るようになるのです。そして次に、自分が楽しければ、人間はそれを伝えたくなる・エンターテイメントです。楽しんで、伝えて、伝わったら、嬉しくて、また伝えて、楽しんで、それが仲間づくりに発展するのです。自分の感情、どうしたいかに気づいて、見返りを求めずにいれば、最後まであきらめないで、伝わるまで、伝え続けることもできるようになるのです。それが**人生をエクセレント**にするのです。

## エクステンジ

自分の根本は変えられない部分もあります。どんなに努力をしても、結局、元のままだった、変れないと感じることもあるのです。そう感じるのも間違っていないのです。違う自分になることは苦しいのですね。だからこそ、**少しだけ行動を変えればいいのです。少しだけ行動を変えることが、人からは違って見える、人から成長したと見えるのです。だから、小さな行動ステップでいいのです。自分を客観的にみて、少しだけ行動を変えてみましょう。勇気をもって。そして、行動を変えることで、自分の中の奥底に、いつの間にか変化が起きているのです。それが成長です。**

このことへの理解なくして、適時、適量の言葉かけは出来ません。

また「あなたメッセージ」—相手の行動を言うのではなく

**[私メッセージ]— 自ら感情に気づいて言葉を発することによってさらに共感が高まります。**

このような親、教師、子どもの関係が築けたときその集団はきっと成長していくのでしょうか。このことへの理解なくして、適時、適量の言葉かけは出来ません。最初から立派な人間はいないよう最初から、一人前の親も、教師もいません。でも、一人一人の力は小さくとも、一人一人は自信がなくても、皆で力をあわせ

ればきっと素晴らしい事ができます。一人一人が助け合えば、勇気が湧いてきます。今の自分は未熟に思えても、その時、その時を精一杯生きて努力をしていけば、その時々ですべての人が「100点満点」なのです。それは、子ども達も、親も、教師も皆同じです。皆が、自分を認められる、そんな育ちをしてほしいと願っています。

だから恐れることは何もありません。行動を恐れ、結果を恐れ、何もしないのは、停滞退化でしかないと私は考えます。人が、呼吸をし、生きているということは、何の成長、進歩もない人生を過ごす為ではありません。そして、最終的に、子ども達が、自分が人の評価ではない、自分の中のもう一人の自分が自分を認めてあげる日、真の自立の日が迎えられる日まで頑張りましょう。そんな幼稚園を共に作りましょう。

この実現のために教育理念があり教育目標があります。この実現のために、どうぞ、手を取り合っていきましょう。かわいい子ども達の為に。次世代のために。それは、とりもなおさず、人間として自己成長につながります。前を向いて歩くことが大切です。失敗したら、そこで学ばばいいのです。次にどうしたらよいか、考えればいいのです。怖いのは、失敗を恐れて一步を踏み出せないことです。迷いながらも、勇気を持って挑戦する事は、人を成長させます。『情けは人の為ならず』、結果として、自分にすべてかえってきます目の前の事柄や手段や結果のみにふりまわされず、問題の奥底にあるものに目をむけていきましょう。すべては、プラス思考です。

又、感動と思い出は誰も作ってくれるものではありません、自分の手で作るのです。感動と思い出は、子ども達に、教師に、保護者にその人がそれぞれの立場で、精一杯頑張った分だけ平等にかえってきます。

作詞家の星野哲郎さんは「今日の山に全力で登る」ことを心がけているそうです。私も毎日毎日というわけではないけれど、「あと一步だけ進もう」ということをできるだけ繰り返してきました。全部の仕事が今日できるわけではない、でももう一步だけやっておこう。読みたい本・雑誌を隈なく全て読めるわけではないけれど、もくじだけでも読んでみよう。

毎日の「To Do リスト」をクリアーできるわけではないけれど、もう一つだけ手をつけてみよう。それが何かに結びついたか？何も結びつかないかもしれない。でも、それをして寝ると心地よく眠れます。

今日から、明日へ少しずつでも成長していることを感じられるのです。それが明日を生きる勇気につながります

**今年一年も、子ども達、保護者の方、職員と共に歩き、  
驚き、響きあいながら、共に成長したいと思います。**

生涯 初心でいることを忘れずに・・・。初めての夢を忘れずに・・・  
わかっているけれどつつい忘れてしまうこと。わかっているもなかなかできないこと。それは、『初心を忘れるな。志を立てた時のことを忘れるな。』ですね。そして、ありがたいことに初心を忘れると思い出すようなメッセージや事象が起こってくるものです。生涯、初心でいられるように・・・。

志や夢を思い出すことができるように・・・

その為にも人とのつながりを大切に、夢に向かって愛とおもいやりと勇気を持って生きていきましょう

## 愛

愛は心を受けると書きます。心を受けるためには高みにいるのではなく下に立っていなければ受けることができません。下(under)に立つ(stand)続ければ understand 理解するという意味になります。  
だから愛とは人も自分も受け入れ、理解すること



人は夢を育て、夢は人を育てる 親、教師は子どもを育て、親、教師は子どもに育てられる